

2. 事業の概要

2-1. 事業報告

京都文教大学

建学の精神を具現化し、学生と社会から評価される大学を実現させるための事業を行うとともに、自己点検・評価による課題発見と解決に努め、共に健全な財政運営を基本に据えて大学事業を進めた。また、10年先を見据えた中長期計画の策定に向けて準備を進めた。

1. 教育・研究の充実と活性化のための事業

- (1) 「人間学部」から「総合社会学部」へ学部名称を変更した。同時に5コース制を導入し、教育の充実を図った。また平成25(2013)年度に「文化人類学科」と「現代社会学科」を統合した「総合社会学科」を設置するための準備を行った。
- (2) 「臨床心理学部臨床心理学科」に「保育福祉支援コース」を設け、保育士養成を開始した。また平成25(2013)年度の「教育福祉心理学科」設置、その下に置く「こども教育心理専攻」と「保育福祉心理専攻」開設のための準備を行った。
- (3) 文化人類学研究科では、留学生の受け入れを進めるため、平成25(2013)年3月に中国の厦門大学と厦門大学嘉庚学院を訪問し、関係者と交流、研究科の紹介とニーズ調査を実施した。
- (4) 海外教育機関との交流事業として、5月に来日した協定校、カナダ・トンプソンリヴァーズ大学の学生一行は、文化人類学科実習科目に合流するかたちで交流と学びの1日を過ごした。また、1月には同じく協定校の米国リンフィールド大学との学生交流プログラムを実施し、本学14名の学生は丸2日米国人学生と行動をともにして大いに交流を深めた。他方、初の私費外国人留学生である中国人学生1名を文化人類学研究科に迎えるとともに、日本国政府国費留学生(研究留学生)の米国人学生1名を臨床心理学研究科にて委託生として受け入れることができた。
- (5) 教育支援課が事務局となり、年間2回のFD委員会、7回のFD作業委員会を開催した。平成24(2012)年度は学生満足度を向上させる施策の検討、学生によるFD活動の推進を重点項目にし、下記の案件を実施した。①授業評価アンケート(各学期 中間・期末 計4回)の実施と学生へのフィードバック②2回のFD講演会を実施し、うち1回は教職員学生によるしゃべり場を初めて実施③学生自治会執行部とタイアップした、学生アンケートを通じた学生満足度向上企画④補講欠席者向け授業ビデオ配信の試行⑤FD委員会規程の改正⑥数学基礎学力診断テスト・新入生アンケートの実施⑦FSDレポートの発行⑧私語対策に向けたキャンパスマナーアップキャンペーン
- (6) 本学における共通教育の充実と、時代にふさわしい教養教育を確立するためのシステムづくりを進めるために、新学部、新学科に柔軟に対応したカリキュラム編成を行った。また、体育実技等の教育環境の改善を図った。
- (7) 高校教育と大学教育の円滑な接続のために、早期に入学が決定したAO・推薦(専願)等の入試合格者に対し、入学前教育として①漢字検定準2級の受検 ②英語eラーニング ③表現力アップ通信講座 ④「Inspire数学の基礎」問題集をメインとして実施した。また、新たな企画として、Word・Excelが使えない入学予定者の為にパソコン入門講座を開催した。また、新入生向けにリメディアル教育として①基礎数学講座 ②基礎英語講座を春学期・秋学期に実施した。導入教育として重要な位置づけにある初年次演習は平成24(2012)年度も継続して学科の専任教員が担当し、新入生が順調に学習活動へ入れるように

した。

- (8) 人間学研究所は本学教員の学際的共同研究を推進する役割を果たすと同時に、一般市民向けの公開イベントを2件行った。キャンパスプラザ京都で12月1日に実施した「人類の始まりと日本人の性文化：浮世絵春画はおもしろい」では145名の参加者を集め好評を博した。また、本学の近隣地域にて子育てに勤しむ親23名を対象に12月8日に実施した保育つきのイベント「Relax' masをあなたに：ゆっくりゆったりホッとコンサート」は、音楽家によるコンサートの鑑賞に加え、子育てをめぐるフリートークや、参加者による発声練習および合唱体験を実施し、充実した魅力あるイベントを行うことができた。
- (9) 科学研究費の本年度新規採択数は残念ながら低調であったが、他学科研費での研究分担者数は拡大を続けのべ13人を数えるまでに至った。加えて11月の公募申請では2桁の申請件数である11件を得た。本年も研究活動振興のため各種情報を周知すべく、教員MLを利用して助成情報を配信したが、日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金へ初の応募があったことが特筆される。
- (10) 宇治市図書館と連携協力がスタートし、市民の本学図書館の利用や宇治市図書館主催の朗読会に本学学生が参加するなど交流を深めた。
- (11) 産業メンタルヘルス研究所による研究・教育・実践活動を通じて、社会貢献に努めた。主な取り組みは以下の通りである。
 - ①産官学連携活動として、官公庁・企業・病院等における職員研修の要請に対して、それぞれの職域や階層に応じたメンタルヘルス研修を企画し、提供した。
 - ②産業領域で活躍できる臨床心理士の養成を目指した産業心理臨床家養成プログラムは、3期生3名と4期生10名のあわせて13名が受講した。3期生の3名は、2年間にわたるプログラム(計40週、80コマ)の課程を修了した。産業精神保健分野で活躍する受講者が増加し、内容も好評であった。
 - ③平成24(2012)年10月、海外研究者・実践者招聘事業3年目として米国組織コンサルタント3名を招聘し、組織心理コンサルテーションセミナーを開催し、臨床心理士、中小企業診断士等40名の参加が得られた。なお、この招聘事業を通じて、中小企業診断協会京都支部会員との組織コンサルテーション研究会を発足、共同事業を目指した研究会が進んでいる。

2. 学生支援事業

- (1) 学生サロン棟「サロン・ド・パドマ」を利用し課外活動の活性化、特に学生たちの居場所、また情報発信スペースとして活用が浸透してきた。指月アワー行事予定をマルチスクリーン告知、7/4七夕祭お飾り作製場所として開放、指月祭実行委員会主催音楽イベント「UJI ROCK Festival」指月ホール公演をライブ中継、指月祭当日企画告知、WAVE RINGSのHIVエイズ予防啓発キャンペーンなどを開催。
- (2) また学生自治会による構内整備提案によるバス乗り場屋根設置、マナーアップキャンペーン、またフットサル大会、3ON3大会の開催、下宿生の集い、サークル活動の継続維持、活性化に努めた。
- (3) 昨年に引き続き、福島相馬26名、岩手GINGA-NET14名、宮城仙台30名で震災復興支援を実施した。
- (4) 今年度は学生部として1回生対象に、事務局員による面談を9月に行い、入学後のフォローを行った。また、2,3,4回生についても呼出面談を行い、今までの3回生以降を中心とした就職支援を、学生部としての学生生活の全体として見直す、という活動を行った。今後は「1,2回生からの学生生活をいかに充実させるか」ということが進路につながるという考えで、学生課とキャリアサポート課で協力して指導をしていった。
- (5) 初の外国人留学生の受入れに際し、私費外国人留学生については留学査証取得に細心の注

意を払った。留学生の来日時は、在留カード取得等の手続き、下宿決定・入居に至るまでは付き添い万全を期した。一方、既に京都大学で過年度秋学期から日本語教育を受けていた国費留学生については、毎月の奨学金受給のための各種手続きを手探りの中行うこととなった。なお、前述の私費外国人留学生が浄土宗平和協会ブックギフト事業に応募し、図書贈呈を受けたことは喜ばしい出来事だった。

- (6) 学生および教職員の健康状態を把握し、必要なサポートが行えるよう①健康診断②入学予定者への麻疹ワクチン接種の呼びかけと感染症に関するアンケート調査③新入生並びに在学学生に対する健康アンケート調査④エイズや子宮頸がんの啓発活動、禁煙・薬物乱用防止活動⑤新採用の教職員を主に救急蘇生法(AED)の講習の実施に取り組んだ。

3. 学生募集に関する事業

- (1) 大きく増加した志願者を今年度も確保するため新企画を2種類行った。結果は今年度も40%増加した

(ア) 受験生の利便性を図る目的と事務作業の軽減を図るためインターネット出願を新規導入した。受験料割引をしたことも影響したのか全体受験生の約7割がこの方法で出願した。

(イ) 志願者大幅増により入試ランキングの高い大学との併願が増加したことから早期に合格を確保したい受験生を獲得するため推薦併願入試日程を一日程追加した。これも成功し昨年度と比べて推薦入試志願者は166%増加した。

- (2) 平成24(2012)年度は、臨床心理学部、総合社会学部とも関連イベントをオープンキャンパス同時開催(8月・9月)で実施した。各学部・学科の学びに直結する内容であったことから予想を上回る1399人の入場者が訪れた。地元マスコミ各社にも取り上げていただけただけから大学知名度アップには寄与したと思われる。

4. 大学財政基盤の強化・充実のための事業

平成25(2013)年4月に教育福祉心理学科を設置することにより、臨床心理学部の入学定員は20名増となり収入増となる予定である。完成年度には80名の収容定員増となり財務基盤強化に寄与すると思われる。また「学校法人京都文教学園旅費規程」改正により、国内旅費にかかる経費削減を行った。

5. 地域連携事業

- (1) 地域連携委員会とフィールドリサーチオフィスを中心に、下記の通り地域および社会との連携を深め、「現場主義教育モデル」の構築と社会貢献を推進した。

(ア) 地域連携学生プロジェクトの実施

① 5月、10月に全学学生対象の学内説明会を実施し、公募、選定し、3学科から3件の地域と連携したプロジェクトを採択、実施した。

② 『親子で楽しむ宇治茶の日 宇治茶スタンプラリー&聞き茶巡り』を、宇治茶振興助成事業助成(京都府茶業会議所)を得て開催した。本事業は、地域連携学生プロジェクト「宇治☆茶レンジャー」が中心となって推進し、親子を中心に約5600人の参加があった。また、本学学生もスタッフとして当日は約100人が参加し、地域と積極的に交流した。

(イ) 大学間連携共同教育推進事業に連携校として参画

① 「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」(代表校:龍谷大学)と「産学公連携によるグローバル人材の育成と地域資格制度の開発」(代表校:京都産業大学)に連携校として参画し、地域連携活動と実践教育を推進した。

② 皇學館大学(11月)と松本大学(3月)で開催された「全国まちづくりカレッジ」に学生と教職員で参加し、本学の取組について発表するとともに地域連携、まちづくりに関わる他大学の教職員、学生らと交流をもつことで、本学の地域連携活動の参考になる多様な事例について学んだ。

(ウ) 地域に対し、学生の地域連携の取組およびサテライトキャンパスでの活動を紹介する『ぶんきょうサテキャン情報』を毎月発行し、ブログなどでも随時活動報告を発信した。新聞各紙へのリリースも積極的に行い、本学の地域連携ならびに現場主義教育の実践や意義について、地域社会に広く広報した。

(2) 宇治市との包括的な連携協定をふまえ、積極的に行政機関との連携を図った。また地域団体と積極的に連携した。

(ア) 平成25(2013)年度からの宇治市委託事業「宇治市高齢者アカデミー」に向けて企画立案、体制整備を行った。各部門と連携、協力、協働事業を実施した。

(イ) 広野公民館との連携事業を推進すると同時に大久保サテライトキャンパスを撤収し、大久保・広野地域での生涯学習を軸とした事業協働体制を整備した。

(ウ) 京都府委託事業「ワーク・ライフ・バランス地域推進事業」を、大久保・広野地域と京田辺地域で実施した。

(エ) 京都府地域力再生事業として京都府、京田辺キララ商店街、NPO法人チャイルドライン京都とプラットフォーム「京田辺ワーク・ライフ・バランス推進会議」を組織化した。

(オ) 伏見区基本計画に基づく施策(「伏見連続講座」)に参加し、本学独自講座を2講座開講した。

(カ) 伏見区向島地区に本学・京都市住宅供給公社・地域住民から構成される運営団体が主体的に運営を行う、向島地域の新たなまちづくりの拠点として「京都文教マイタウン向島」を開設した。

6. 大学評価に係る事業

(1) 平成23(2011)年度京都文教大学自己点検・評価報告書を以って、(財)大学基準協会による第三者評価を受審した。書面評価及び実地調査を経て、平成25(2013)年3月28日に(財)大学基準協会の大学基準に適合しているとの認定を受けた。なお、認定の期間は20(平成32)年3月31日までである。

7. 総合社会学部開設記念・臨床心理学部教育福祉心理学科開設記念事業

(1) 平成24(2012)年度4月の「人間学部」から「総合社会学部」への学部名称変更、平成25(2013)年度の臨床心理学部教育福祉心理学科設置を記念し、下記記念イベントを開催した。

(ア) 総合社会学部開設記念事業

① アニメ『らき☆すた』聖地鷲宮から学ぶコンテンツツーリズム(9月)

② 韓流と日韓交流(9月)

③ 親子で楽しむ宇治茶の日2012(10月)

(イ) 臨床心理学部教育福祉心理学科開設記念事業

① 中村獅童講演会『歌舞伎のこころ』(8月)

② 桐竹勘十郎講演会『文楽と日本の精神性』(10月)

③ 子ども最前線!教育福祉心理学科の挑戦~子どもの内面にふれる創造的教育学に向けて~(12月)

(2) 図書館蔵書管理システムのリプレースを行った。特に蔵書検索システムは、キーワードによる絞り込み検索の操作性の向上や、検索結果画面に書影が表示される等大きく改善され、利用者が直感的に必要な情報を容易に素早く確実に検索できるようになった。

8. その他

(1) 高大連携委員会を中心として学園連携推進室と協働し、京都文教高校とのアドバンストレックチャープログラム(ALP)として年間19回の授業を実施した。また、高校3年間の中で、オープンキャンパスへの参加、キャンパス訪問、模擬授業への参加、ALP説明会等を組み合わせ、流れのあるプログラムを実施し、連携の強化を図った。平成24(2012)年度も京都文教中学2年生全員のキャンパス訪問を実施し、中学・高校・大学の流れの定着を図

った。

- (2) 上宮高校プレップコースとの連携を強化し、本学を希望する学生を確保するため、連携プログラムの見直しを行った。

京都文教短期大学

平成24年度は、本学の建学精神を基盤として、社会のニーズに応えることの出来る人材を育成し、地域社会に貢献する短期大学を目指した事業を推進した。

キャリア教育の質的向上及び教育環境改善を中心として事業計画を立て、本学内の自己点検・評価活動を推進し、本学の教育の質向上を目指し、全学的な取り組みを進めた。

第三者評価機関の自己点検・評価活動を受けるべく、全学的な取り組みを行った。

1. 建学の精神の涵養：

- (1) 全I回生を対象に「自校史を学ぶ」をテキストに使用して「建学の精神」「学訓」「本学の歴史と歩み」を理解し、自分自身の内面を見つめ、「いのち」「共に生きること」の意義を探究し、自ら「心豊かな人生」について考え、社会に貢献できる「人間力」を獲得させる授業を行った。

2. 教育・研究の充実と活性化のための事業：

- (1) FD活動は昨年度に引き続き学内においては授業研究会、授業公開を行い、また外部の研修に積極的な参加があり、活発な展開がなされた。
- (2) SD規程を制定したことにより、従来のSD活動を明確にし、更なるSDの活性化を図り、外部の研修会に積極的に参加し、個人の資質向上のみならず事務職員全体のスキルアップを進めた。平成24年度の職場内研修はFD研修と同時開催で「大学教育の質的転換を図る一歩の関心、意欲をもたせるためにはー」を開催した。
- (3) 総合教養科目、ライフデザイン学科、食物栄養学科の教育課程を改正し、キャリア教育の向上、新たな資格取得の取組と教育の充実を図った。

3. 学生支援事業：

- (1) 入学前教育及びリメディアル教育の点検評価を行い、効果的な教育支援の充実を図った。課外講座を積極的に行い、キャリアアップ教育の支援も行った。

4. 学生募集に関する事業：

- (1) 入試情報を高校生がいつでも見られるように携帯電話（スマートフォン）対策を講じ、トップページフラッシュに短大キャラクター「ぶんたん」を登場させ、生徒にアピールすることができた。受験生の減少が言われる中、入学者を確保することができた。

5. 地域連携事業：

- (1) 京都文教公開講座「京都文教教養講座」を8講座、「いきいき健やか講座」を1講座・延べ4回開講、「あおい講座」を4講座・延べ16回開講、「リカレント講座」を1講座開講した。会場は本学並びにサテライトキャンパス宇治橋通りで実施した。
- (2) 子育て支援室を活用した地域との連携を進めていく。子育て支援室を教育の場として学生や教員が積極的に参画し、来室する子どもや親に子育て支援室の催しを通じて地域社会に貢献した。外部からの見学が多数あった。

6. 短大評価に関わる事業：

- (1) 本学が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、本学が追求している教育の質向上の取り組みを積極的に公開した。
- (2) 平成23年度自己点検・評価報告書を作成した。

- (3) 全国保育士養成セミナー、全国保育士養成協議会第51回研究大会が平成24年9月5日（水）、6日（木）、7日（金）に本学を会場に行われた。本セミナーの参加者は1,200名を越え、研究発表でも口頭発表が60件、ポスター発表が193件、合計253件に上った。参加者・発表件数共に記録を更新し、過去最大規模で盛大に開催された。裏千家大宗匠による特別講演、並びに淡交会北支部各位によるサロン・ド・パドマでのお呈茶席も大いに賑わった。

京都文教高等学校・中学校

昨年度に引続き、生徒の学校生活での満足度を上げることを念頭に【建学の精神】のもと、教職員が結束して取り組みを行なった。特に中学課程では、自然・社会・文化・芸術に触れる課外学習を計画的・体系的に配置し、情操豊かで向学心溢れる生徒を育てることに努めた。また高等課程ではコースの特徴や目的を明確化し、キャリアプログラムや進路指導を通じて、生徒一人ひとりの進路目標実現に向け努力した。

1. 生徒募集に関する事業について
 - ・完全男女共学化2年目の募集は、中学生93名（内男子41名）、高校生335名（内男子125名）の入学者を得た。
 - ・中学入試の受験日程を変更。A日程Ⅰ・Ⅱ、B日程Ⅰ・Ⅱ、C日程とした。
2. 掃除の徹底・あいさつ運動の強化
 - ・掃除について、教員が最初に手本を示し生徒と一緒にこなうことで一定の成果を得られた。
 - ・あいさつについて、教職員からの声かけを実施。一定の成果を得られた。
3. 中学校での安心できる人間関係をつくる取り組みを行う（情操教育の充実）
 - ・芸術鑑賞・校外学習など例年の行事に加え、映画鑑賞・能体験・マラソン大会を実施。自然・社会・文化・芸術に触れる機会を増やした。
 - ・ボランティアの日を設定し、岡崎公園周辺の清掃活動を行なった。
4. 6ヶ年教育課程を再構築する
 - ・国際英語コース最終学年の留学先を、グリーンカレッジに変更した。
 - ・京大・医歯薬コースをのぞく全コースで高校進学時のコース変更が可能になり、進路選択のサポートを行なった。
5. 学習サポート体制の強化（高校サポートセンター、中学bururuセンターの更なる活性化）
 - ・サポートセンター、bururuセンターのスタッフを共通化し、効率よく運用できるようにした。
6. 進路実績の向上をめざす（進路指導體制の強化）
 - ・学力伸長・志望校検討委員会を立ち上げ、模試結果の分析結果を担当及び教科に示し、具体的な教科指導・進路指導への助言を行なった。
 - ・中堅大学（産近甲龍佛）以上への合格実績を高める施策を講じ、国公立12名（昨年9名）、関関同立34名（昨年29名）、産近甲龍佛62名（昨年42名）の合格者を得た。
7. FDC（教科指導力向上センター）の活性化を図る
 - ・研究授業の実施や授業アンケート結果をもとに具体的な改善案を提示、教科指導力の向上に寄与した。
8. C・C主任の役割強化（学習意欲を高め学力を高める、コース毎の行事の充実など）
 - ・コースの進路目標を明確にすることで、「すべきこと」の具体化を行なった。
 - ・FD、学年主任等との連携を図り、コースの進路目標達成のため相互に連絡を密にした。

- ・学力伸長・志望校検討委員会にC・C主任も参加。模試結果に基づく情報交換を行なった。

9. HR（ホームルーム）の改善

- ・目的意識を持った秩序あるHR集団の形成を目指すべく、年間のHR指導計画を立て指導を行なった。
- ・学習習慣・生活習慣を定着させるべく、宿題・課題の提出状況や健康観察を行なった。また、教育環境を整えるべく、清掃や月間目標の掲示を徹底した。
- ・保護者との連携を密にするため、報・連・相を徹底した。

10. モーニングクイズ（MQ）朝学習の徹底（国語、数学、英語、読書等）

- ・中高全学で実施。読む・書く・計算する・覚えるという勉強の基盤の習得に努めた。また検定とも連携し、漢検・英検の事前指導にも利用した。

11. 英検受験・漢検受験の必修化

- ・中高ともに積極的に働きかけ、事前指導・事後指導を行なった。結果は以下のとおり。

英検	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
中学			21	61	77	79
高校	2	34	105	163	83	22
漢検	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
中学		1	6	51	73	66
高校		24	73	137	30	1

12. 高校での海外研修の実施

- ・高校1年生から3年生を対象に、夏休み期間中10日間カナダトロント方面での語学研修・ホームステイを行なった。参加者は15名。

13. 中学校3年生までは、クラブ活動全員参加を必須化

- ・先輩後輩という縦のつながりにおいて、人間関係の幅を拡大した。また、目標意識を持つことの大切さを実感させた。

14. 中学1年入学生の中3における修学旅行をグアムとする（中学3年10月実施）

- ・テーマ「異文化理解を深める」（英語力、平和学習、現地校と交流、自然体験）を趣旨に旅行取扱業者と打合せを進め、旅程・内容について決定し、事前学習プログラムを策定した。

15. ホームページを充実させ、日々の学校での活動、成果等を掲載し、広報活動を活性化させる

- ・学校での生徒の活動を広く知らしめるべく、更新頻度を高めた。またTwitter、Facebookの運用も好評を得、フォロワー者数も増加中である。

16. 全共学化に伴う男子クラブ活動の活性化を図る

- ・男子部員の受け入れクラブを設置した結果、運動部への男子入部者が増加した。

17. 学校評価の実施

- ・年2回の授業アンケートを実施。その結果を基に学校長と面談を行ない、教科指導力の向上に役立てた。

18. キャリア教育の推進

- ・コースの目的に応じ、適切な時期に適切な内容で行なうよう、スケジュールと内容を見直し実施した。

19. 京大・医歯薬クラス指導体制の強化

- ・高校京大・医歯薬クラスの実力をさらに高めるため、放課後特別授業を継続的に実施した。その結果、コースの目的に合致する進路実績を得ることができた。（医・歯・薬系学部への進学増加）

20. 高大一貫システムの見直し

- 「内部進学クラス」の見直しについて、進学保証に頼るのではなく、一般受験予定者と同様の学習指導内容とした。
- ・体育クラスと短期大学(ライフデザイン学科)との高大連携が始まり、毎週金曜日に宇治キャンパスでの講義を受講した。

21. 施設・設備関係

- ・1号館・2号館耐震補強改修工事を行なった。
- ・耐震工事に合わせ、老朽化した生徒用机椅子を廃棄し、新規に購入した。

京都文教短期大学付属小学校

仏教情操教育を基盤として、知・徳・体の調和のとれた豊かな児童の育成を目指し、「明るく・正しく・仲よく」の生き方を培う教育活動を推進。

1. 教育課程

①宗教情操教育

宗教情操教育は「明るく・正しく・仲よく」の仏様の教えを守る仏の子として精進努力することを基本として学校の教育活動全体を通じて推進した。

毎週水曜日の礼拝の後、「月影」の時間と名付けた宗教の1時間を持つ。

その「月影」の時間は行事や児童会活動・教科学習と横断的に関連を持たせ、「共生・人権・命」を内容とする総合単元的学習の要となる。

特に、児童会活動に縦割り活動を組み込み、やさしい人になってほしいという願いの下、共生の活動の基礎を培っている。

1年生お迎え集会 縦割り班顔合わせ・・・4月

知恩院参拝・・・4月・2月

縦割り「ウキウキウォーキング」・・・5月

5年認知症理解学習・川端診療所慰問・・・6月

縦割り「いい日旅立ち遠足」・・・10月

ボランティア集会（バザーでの活動）5・6年

盲導犬育成への支援4年・児童会・・・11月

月かけ集会（児童会総会）児童会・・・12月

お年寄りの方との交流学习3年 お家の方ありがとう茶会2年・・・2月

6年生ありがとうの会・ありがとう茶会 縦割りありがとう給食・・・3月

②各教科・行事等による学力の向上

基礎基本の学力習得を重視し、朝のねっこタイムで繰り返し習熟学習を、放課後の「のびっこタイム」で補充学習を実施した。

過去より、全学年、1分スピーチに取り組み、「学びと力の発表会Ⅰ&Ⅱ」でのスピーチにつなげている。この発表会では各学年より2名の児童がスピーチを行っている。「学びと力の発表会Ⅰ」でスピーチをした3年生児童2名は9月の入試説明会においても映像を見せながらのスピーチを頑張り、参加園児保護者の皆さんにプレゼンテーションの力を発信した。

さらに、全児童の1年間の話す力の発信の場として、2月の書き初め・版画作品展において親子作品鑑賞会を持ち、自分の作品はもちろん友達作品についても全員が意見や批評を行った。

(新学習指導要領「あらゆる教科で言語力の育成を！」を受けての取り組み。)

新学習指導要領を受けた教科学習の観点の変更点を重視し、「深く考え表現する子」を掲げ、思考力・表現力を育成する指導(授業)と見取り(評価)を研究課題とした。

また、思考力・表現力の一環として児童総会(12月)での議事進行の力や発言力を育成することを緊急課題として、学級活動に全学年で力を注いだ。その結果、学級会活動が活発になり、全校に各学年から楽しい発信がいっぱいなされた。

③茶道をととした礼法学習

1・2年生の生活科では、11月から2月の16時間を配当した茶道を通した礼法学習を行っていたが、今年度、1年生を10時間とし、3・4・5年に2時間ずつの礼法を入れ、おさらいの礼法学習を実施した。1年生は「班長さん（6年）ありがとう茶会」を、2年生は「おうちの人ありがとう茶会」を開き、仕上げとした。

裏千家学校茶道・淡こう会に、2名の先生と2名の助手を招請。

多目的質「和」に、35畳の畳を敷き実施。

学年ごとに1名の先生と2名の助手と担任・副担任とで指導に当たった。

④英語の時間

各学年週1時間の英語の時間を持ち、1・3・5年においてはネイティブ教師1名と英語専科教員1名で指導に当たり、2・4・6年では前学年での学習を英語専科教員1名で定着を図った。2・4年でTECS検定試験4・5級を受験し、2年A判定28名4年A判定25名。昨年同様の成果が出ている。

6年生では中学英語への架け橋となるべく、中学国際英語コースの先生をプラスし、文法の指導等を盛り込んだ。

その外、各学年、週1回20分の「ねっこイングリッシュ」を持ち、習熟を図る。

1月に英語授業参観を2日間にわたり実施。特に、定着を図った2年4年で、1年間の英語力の伸びにおいて、保護者より高い評価を得ることができた。

3・4・5・6年では、学年末にポートフォリオ評価表に英語（話す・聞く）の評価を記入（児童の自己評価・教師の文言評価・ABCの観点別評価）

⑤総合的学習

子供たちは、課題解決や探究活動に主体的に取り組み、チームワーク力や調べ方まとめ方を身につけ、その成果を発信する「学びと力の発表会」において、表現力や創造力をも育んだ。

⑥情報教育

1年生からパソコンの起動やマウスをつかっでの操作学習を行った。

1・2年生はカード作りを楽しんだ。

3年生からローマ字入力のキーボード操作に取り組んだ。高学年では、インターネット検索を学習し、ネットのエチケットなどを学習した。

図鑑や辞書・辞典の活用についてもカリキュラムとして盛り込んで実施した。

⑦体力の増進

朝のねっこタイムにおいて、各学年は、週1回、マラソンに取り組んだ。

中高のグラウンドを走る取り組みを実施。

体育の内容によって、グラウンドでの実施が効果的な場合はグラウンドでの体育を実施。

水泳学習は、中高の温水プールで2週間にわたり実施。5月中旬

課外活動として毎週火曜と金曜日にサッカーとバレーボールのスポーツ教室を実施。

今年度より、卓球教室を開く。中高卓球部と交流指導を受ける。

月に1回、希望者参加のサタデーサッカーを実施。

全校ドッジボール大会 5月 12月 琵琶湖自然教室 7月

大江山自然教室 7月学期末

2. 教職員研修

①教員研修

12月の月影集会を児童会総会の月影集会にすることを旨し、学級活動・児童会活動の研修に取り組む。学級会の授業研究を4年で実施。併せて評価観点と見取りの場についても共通理解を図った

教科の評価観点が大きく変わったのは、「思考・判断」に「表現」がセットされたことである。「思考判断表現」を見取る授業の実践と見取りが緊急課題であると捉え、指導実践に取り組み、実践をまとめ集積した。

②各学年担任・専科教員は新教育課程の下、新教科書に沿った年間カリキュラムを作成。

③人権研修として、本校の月かげ集会を児童会総会で実施することに向け、各学年での人権学習の確認・アンケート確認等と実施後の結果分析・考察について研修。

④毎月10日を「生徒指導の日」とし、生徒指導部会を低・中・高・専科・7年に分けて持ち、

学期に1回は合同部会を持つ。

部会では、問題行動の把握や焦点化児童への対応等、話し合った。

5. 児童募集

6 / 3 (土) 小学校校舎と体育館を使って幼稚園児を対象にスタンプラリーを実施。

6 / 4・5 塾や幼稚園の先生・保護者を対象にした学校説明会・授業見学会を6月に2回実施。

9 / 14 (金) 入試説明会&授業見学会実施。

平成25年度新入生 入試結果

項目	男子	女子	合計
応募者数	30名	25名	55名 一次 34名 二次 21名
合格者数	23名	23名	46名
辞退者数	2名	5名	7名
入学者数	21名	18名	39名

* 応募者数55名の内、受験者数は立命館小の欠席辞退により合格者と同数の46名。

* 受験後の辞退7名は教育大附属小が殆ど。(他、ノートルダム小)

6. 学園としての連携

短期大学との連携 栄養士実習を受け入れた。9月、2月の2回 1週間ずつ。

栄養教諭実習は無し。

大学 本校グローバル週間1/15～2/1 文化人類学科との連携

* 金先生・学生8名：インドの小学校に本校4年生のカード届けていただく。

1/23、本校4年生はインドの小学校からの返信を受け取り、インドのお話を聞かせていただく。

長野先生による「体力と学力の関係に関する研究」の下、保護者アンケートや本校児童の新体力測定を実施し、個人結果と併せ文教小児童全体の傾向について、3月、結果をいただく。保護者説明は、次年度の予定。

7. 施設・設備

運動場 全面改修

京都文教短期大学附属家政城陽幼稚園

在園児165名(年長77名・年中40名・年少48名)のスタート。

近年の社会状況の変化のなかで、幼児が生活している家庭や地域社会、幼児の生活そのものも大きな影響を受け、幼児に対する不安を抱く保護者が増加したり、同年代の幼児と一緒に遊ぶ機会が減少したりしています。そのため、子育ての支援のために幼稚園の施設や機能を地域に開放し、幼児教育に関する相談に応じたりするなど、地域の幼児教育センターとしての役割を果たしていくこ

とが必要とされてきました。

平成24年度の子どもの姿

仏教精神（法然上人・お釈迦様）の教えを、保育内容の充実に努めた。

三歳児はクラスのお友達との関わりを十分に楽しんだり、他のクラスの友達にも興味を持ったりできるように、保育者は簡単なルールのある集団遊びを取り入れたりして、一緒に活動する楽しさを経験できるようになった。また、身のまわりのことで自分でできるようになったことをほめて共感することが大切である。

四歳児は、一年間の生活や遊びを通して自分のクラスのみみんなで遊ぶ楽しさを十分に味わうことのできる時期です。保育者は子ども同志が十分に関わって遊べるような環境を整えることに留意し見守ってきた。年長児と一緒に活動する時間を持つ中で、進級に期待を持って過ごすことができるように、配慮してきた。

五歳児はもうすぐ卒園。子ども達は一年生になる喜びでいっぱいになります。誰もが自信をもって卒園していけるように残りの園生活を子ども達で進めていけるように生活や遊びの環境を整えたり、園生活で楽しかったこと嬉しかったこと頑張ったことを話し合う機会を大切に指導してきた。

いつも希望を胸の中に持ち、『明るく・正しく・仲良く』を基として、明るい明日の生活を目指して、よく学びよく動き、よく遊び、すべての人のために楽しい社会を生み出すように努力してきた。

1. 子育て支援『ひよこクラブ』

在園児の弟妹を対象として就園前保育を実施し、ひよこクラブとして活動しております。このクラブは（子育ての悩み・親子に遊びの場を提供・保護者の交流・子育ての喜びを共感）していただく。

目的『友達と一緒に楽しく遊びましょう。お母さんたちの輪を広げ、一緒に子育てしましょう』

年間計画（5月～2月）までの支援活動として、31回の実施。登録受け入れ人数18名。

2. 子育て支援『ばんだクラブ』

～先生と一緒にあそびましょう～

就園前のお子さんを対象に幼稚園を開放し、親子で安全にのびのびと遊んでいただける活動を開催。この機会に同じ年令のお子さんを持つ親同志の交流を深めつつ、幼稚園での楽しい時間を過ごしていただきたいと計画した。

平成24年度は8回実施、延159名参加されました。

例	9：30～9：45	受付
	9：45頃	幼稚園の遊具で遊ぶ
	10：45頃	ホール入室
		うたを歌う
		紙芝居を見る
	11：30	解散

3・通常預かり保育事業

平成24年度より預かり保育実施

- ・預かり保育を希望する場合は、事前申込の登録制とする
- ・年間登録料 1000円
- ・費用1回300円
- ・預かり保育時間（月・火・木・金の午後保育の日）午後2時15分～午後4時45分まで。
- ・一日の定員数20名（最大25名まで）

5月228名	6月344名	7月148名	9月330名
10月382名	11月364名	12月246名	1月313名
2月349名	3月166名		

一ヶ月平均287名	延人数2870名
-----------	----------

*学校評価（幼稚園アンケート）について

学校教育法第42条及び学校教育法施行規則第66条～68条により、学校評価についての規定が定められています。

- ・教職員により自己評価を行い、その結果を公表すること
- ・保護者などの学校の関係者による評価（学校関係者評価）を行うとともにその結果を公表するようつとめる

平成25年1月18日幼稚園アンケート実施

『集計結果別紙』

回収率 年長82パーセント 年中95パーセント 年少92パーセント
全体88パーセント